

# シニックバイウェイ北海道制度検討委員会について

---

シニックバイウェイ北海道 推進協議会

令和3年12月14日



Scenic Byway HOKKAIDO

# これまでの経緯



シーニックバイウェイ北海道スタート

Scenic Byway HOKKAIDO

モデルルート指定（平成15(2003)年）

第1次指定（指定ルート3・候補ルート2）（平成17(2005)年）

指定13、候補3に拡大（400以上の活動団体）  
ルートの特徴も活動もより一層多様化  
当初からのルートは16年間にわたって活動を継続



■ : シーニックバイウェイ指定ルート   ▨ : シーニックバイウェイ候補ルート

# 多様な取組①『美しい景観づくり』の事例

～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～  
 ビューポイントパーキングの景観改善（電線移設）  
 （支笏洞爺ニセコルート）



電柱の老朽化による更新に伴い電線を移設し、羊蹄山を望む景観を大幅に改善し、シニックデッキもリニューアル

道路景観の改善に向けた道路附属物の影響評価と改善  
 （釧路湿原・阿寒・摩周シニックバイウェイ）



「ルート景観づくりマスタートップラン」を策定し、現地視察のうえ、景観課題の優先度を評価した上で、中期的な時限計画とフォローアップ体制を再構築

地域住民と道路管理者の地域協働による  
 板割拡幅記念植樹区間景観保全活動  
 （札幌シニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート）



平成15年の拡幅事業記念植樹後、時間の経過とともに樹木が成長し景観を阻害する状態になっていたため、平成28年の小金湯さくらの森オープンを契機に、地域住民と道路管理者が協働で草刈りや樹木伐採、ゴミ拾いを実施する道路景観保全活動を開始

シニックデッキの設置  
 （東オホーツクシニックバイウェイ）



景観の良い駐車スペースのあるポイントに、シニックデッキを設置し旅行者などがゆっくりと景色を眺め休憩する事により、東オホーツク全体のPRや交流を促進

# 多様な取組②『活力ある地域づくり』の事例

Scenic Byway HOKKAIDO

～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取組み～  
函館新道「花いっぱい運動」及び「シーニックdeナイト」  
(函館・大沼・噴火湾ルート)



道ゆくドライバーや函館を訪れた国内外の観光客の方々に「綺麗なお花」を見て、旅の疲れを癒し、喜んでもらいたいというおもてなしの取組み（10年以上継続）

～羊蹄山ビューポイントの眺望を守り・活かす環境保全活動～  
「みらいの森」育樹プロジェクト  
(支笏洞爺ニセコルート)



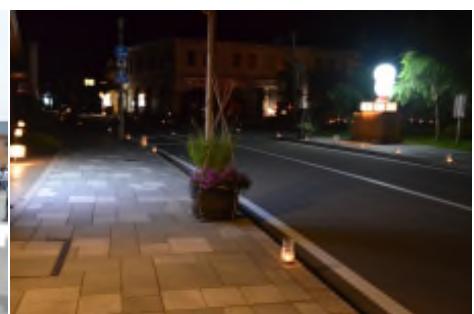
羊蹄山のビューポイントとして、2018年9月に活動を開始した「みらいの森（ニセコ町）」。ビューポイント看板も新設し、シーニックの森としての登録を目指して、森林の保全・活用を推進

てしかが情報掲示板による情報提供の試行と効果検証  
(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)



道の駅摩周温泉の24時間トイレに掲示板を設置し、商工会と連携して地域情報をインフォメーションカードで発信

いにしえ街道の景観をいかした街づくり  
(どうなん・追分シーニックバイウェイルート)



江差歴まち商店街の「いにしえ街道」では木造瓦屋根の懐古な街並みと地域が独自に持つ歴史、文化の財産を後世に継ぐべく磨き上げ、新たな見方の景観づくりや交流人口拡大推進を図り、街の個性を最大限に活かした地域づくりを活発に実施

# 多様な取組③『魅力ある観光空間づくり』の事例



Scenic Byway HOKKAIDO

## どうなん道の駅連携事業 (どうなん・追分シニックバイウェイルート)



ルート内の道の駅と連携し、サインやラック等の整備で、サイクル環境の向上と情報発信を拡充冬期の閑散期対策として、道の駅等が連携したどうなん・追分シニックdeナイトの取組の拡大

## 「きた北海道エコ・モビリティ」の推進 R 3 モニターツアーの実施 (天塩川シニックバイウェイ×宗谷シニックバイウェイ)



一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆手に、地域にとってプラスに、地域資源に触れ・遊び・移動そのものが観光となる新しい旅のスタイル『きた北海道エコ・モビリティ』を広域で連携・推進

## 観光に関する若手によるワークショップ「しゃべり場」の開催 (宗谷シニックバイウェイ)



宗谷地域の観光に関する「若手」を中心に、地域の活性化やこれからの観光について、自由に意見を交わすワークショップを開催し、若者ならではの新しい意見を把握するとともに、宗谷地域の人材ネットワークの強化、これからの宗谷地域やシニックを担う人材の育成を目的に実施

## ライフコンシェルジュ（ご当地風土アドバイザー）育成事業 (トカフチ雄大空間)



十勝の魅力・生活の楽しみを伝えるライフコンシェルジュを育成し、観光拠点やバスツアーでのガイドの実施やイベントでの地域PRなど、おもてなし活動の向上を目指す

# これからのシニックバイウェイ北海道に向けて



Scenic Byway HOKKAIDO

## シニックバイウェイ北海道開始以降の取組の進展と社会環境の変化 (新型コロナウイルス、地方創生、インバウンド…)



### 座談会『シニックバイウェイ2040～北海道の未来につなぐもの～』 (令和2(2020)年10月)

- シニックバイウェイを作り、育ててきた5人（小林英嗣ルート審査委員会委員長ほか）が  
**20年後を見据えたシニックバイウェイ北海道が目指すべき方向性**について意見交換
- 人と人のつながり、地域と観光の関係性、次世代への継承、制度の見直し、ドライブ観光促進等  
について幅広く議論



### シニックバイウェイ北海道制度検討委員会 (令和3(2021年)10月30日設置)

今後のあり方

制度の見直し

新たな委員

今や北海道にとって欠かすことができないシニックバイウェイ北海道が  
さらに一歩、新しいステージに踏み出して、  
北海道の未来に貢献していくために必要な事項について検討

# 制度検討委員会 3つのキーワード



Scenic Byway HOKKAIDO

今後のあり方

社会環境の変化を踏まえた目指すべき方向の共有

前回提言時(2015年)に**地方創生**や**インバウンド観光**の視点も踏まえたが、  
その後も地域づくり、景観づくり及び観光空間づくりに係る**新しい考え方**や**取組が生まれ**、  
さらに新型コロナウイルス感染症も経験した社会で生じた**技術や人々の価値観の変化**も踏まえた  
**これからのシニックバイウェイ北海道の推進**について検討

制度の見直し

座談会や今後のあり方の議論を踏まえた制度改正の具体化

将来にわたってシニックバイウェイ北海道が役割を果たし続けることができるようするために、  
**今後のあり方の議論を踏まえた制度改正の具体化**や  
座談会で提唱された『長期間活動してきたルートの「新たな関わり方」の選択肢』となる制度について検討

新たな委員

多様な分野・世代の新たな有識者等を交えた検討の深化

シニックバイウェイ北海道の取組の進展や社会環境の変化等を踏まえた今後のあり方の検討にあたっては、  
**これまでのシニックバイウェイ北海道を理解し、牽引してきた有識者等に加え、**  
**これからのシニックバイウェイ北海道に必要な知識・経験を有する**  
**多様な分野・多様な世代の有識者等を交えて**検討することが重要

# 制度検討委員会委員

Scenic Byway HOKKAIDO

## ルート審査委員会の委員



**小林 英嗣**  
北海道大学  
名誉教授



**石田 東生**  
筑波大学  
特命教授



**高野 伸栄**  
北海道大学  
教授



**石山 醇**  
日本国際観光学会  
顧問



**臼井 純子**  
日本風景街道  
コミュニティ  
理事

## 新たに制度検討委員会委員に就任した委員



**木村 宏**  
北海道大学  
観光学高等研究センター  
教授



**羽鳥 剛史**  
愛媛大学  
環境デザイン学科  
准教授



**岩井 宏文**  
株式会社  
GB産業化設計  
代表取締役



**山岸 奈津子**  
クライメイトPR  
代表



**目黒 沙弥**  
株式会社  
IWANAI UNITED  
代表取締役

# 制度検討委員会の進め方



Scenic Byway HOKKAIDO

委員会①  
2021年10月30日WEB開催

検討事項と今後の進め方  
委員プレゼンテーション①

委員会②  
2021年12月13日WEB開催

委員プレゼンテーション②  
シニックバイウェイ支援センターとの意見交換

ルート関係者との  
意見交換

新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえつつ、  
委員が分担して各ルートとの意見交換を実施



概ね令和4（2022）年度末までにとりまとめ



その後、シニックバイウェイ北海道関係者での認識の共有や  
シニックバイウェイ北海道推進協議会における必要な制度改正を措置